

## 2019年度南山大学外部評価委員会評価報告書を受理して

学長     ロバート・キサラ

本学は、「南山大学内部質保証規程」に基づき、本学の建学の理念の実現に向けて、教育研究および管理運営等に関する自己点検・評価を実施し、教育研究水準を向上させ、自らの責任でその質を保証することに努めています。そして、「南山大学外部評価規程」に基づき、外部評価委員会による外部評価を実施し、自己点検・評価の客観性や妥当性、内部質保証の有効性を高めることに努力しています。また、この外部評価の結果は、「南山大学外部評価規程」第2条第3項に拠り、社会に対して公表するとともに、南山大学内部質保証委員会において活用することにしています。

2019年度外部評価委員会は2020年1月11日（土）に開催し、本学からは、自己点検・評価委員会（現在の内部質保証委員会）委員および内部質保証推進委員会委員、関係事務職員が参加しました。委員会では吉田竹也副学長（教学担当）・内部質保証推進委員会委員長が本学の状況説明を行った後、外部評価委員会の委員の皆様から有益なご意見をいただきました。そして、2020年10月には、外部評価委員会から、「自己点検活動・評価結果の客観性・妥当性」と「内部質保証の有効性」の2つの観点にもとづく外部評価委員会報告書をご提出いただきました。

この報告書において、外部評価委員会による評価結果およびそれに対する提言は、迅速に対応すべきものと、中長期的に実現していくべきものが含まれていましたが、2020年度に受審をした大学評価（認証評価）の結果も踏まえて、以下の提言を、今後、特に重点的に取り組むべき項目として位置づけ、内部質保証委員会には、提言に対する具体的な改善を進めることを指示いたします。

これら重要項目につきましては、その取り組みの結果を、次回の外部評価委員会で評価いただき、これを通して、更なる教育研究水準の向上を図り、自らの責任でその質を保証することに努めてまいります。引き続き、関係者の皆様には、ご協力をお願い申し上げます。

### 1. 内部質保証の有効性について

#### （1）PDCAサイクルの強化

これまでの内部質保証の枠組みを基本としながらも、大学レベルの目標・計画を明確にし、これを踏まえた組織レベルの目標・計画を明確なものとしていきます。その上で、それぞれの目標・計画の達成度を自己点検・評価し、その結果を次の計画に反映させる仕組みを確立していきます。

（外部評価報告書との対応）

- ・評価のための判断基準の明示、判断するための客観的エビデンスの活用（提言③、p. 5）

#### （2）3階層のPDCAサイクルの整理

内部質保証システム体系図などの見直しも行いながら、大学（全学）レベル、プログラム（組織）レベル、授業レベルの3階層のPDCAサイクルの関連性をより分かりやすいものにしていきます。

(外部評価報告書との対応)

- ・内部質保証システムのマネジメント・フローの明示 (提言⑥、p. 7)

## 2. 自己点検活動・評価結果の客観性・妥当性について

### (1) 学習成果の把握・評価の改善

学部・学科、研究科・専攻毎に開発してきた学習成果の把握・評価方法を全学的な視点から比較・評価し、あわせて他大学の取り組みも参考にしながら、それぞれの方法をさらに有効なものにしていきます。これらの方法を用いて、学習成果を適切かつ多角的に把握・評価して、その結果を教育改善に活用していくことを目指します。

(外部評価報告書との対応)

- ・直接評価の好事例の展開と IR を活用した間接評価の充実 (提言⑨、p. 11)

### (2) カリキュラム・マップの見直し

カリキュラム・マップはカリキュラムの体系を示すと同時に、カリキュラムの履修を通して現在の学習成果を把握・評価するために必要なツールになります。本学ではカリキュラム・マップ (試行版) を作成してきましたが、大学のディプロマ・ポリシーに示す学習成果と、学部や学科のディプロマ・ポリシーに示す学習成果の関連性をさらに整理し、学習成果と授業科目との対応関係をさらに明確なものにしていきます。

(外部評価報告書との対応)

- ・教育の質保証の基盤整備としてのカリキュラム・マップ：学部等におけるDPの設定および科目設置における全学的指針との関係性の明示 (提言④、p. 9)
- ・カリキュラム・マップに基づく設置科目の調整と学習成果の測定 (提言⑤、p. 11)

以上